



大森赤十字病院の旧本館跡地に建設されていた「大田区立障がい者総合サポートセンター」(愛称、「さぼーとぴあ」)が、この3月にオープンしました。どのような施設なのでしょうか?皆様も建設中から関心を寄せていましたことでしょう。今回はその事業内容を各階のフロアガイドに対応させてご紹介します。

### ご挨拶 障がい者総合サポートセンター所長

障がい者総合サポートセンターは、3月1日に無事開設いたしました。開所式とオープニングイベントも終了し、地域のみなさまにもサポートセンターがどんなところか、体験していただけたのではないかと存じます。

また、昨年には、愛称を広く公募し、「さぼーとぴあ」と決定いたしました。この愛称には、「多くの出会いと繋がりが生まれ、障がいのある方もない方も希望があふれるセンターであって欲しい」という期待が込められております。障がいのある方とない方を繋ぎ、お互いにまちでの生活が豊かになるよう、それを支え後押しするのがサポートセンターの役割といえましょう。

サポートセンターでは、障がいのある方の生活を支えるオール大田の施設として、障がいに関する相談窓口のほか、リハビリテーションや就労支援のための通所訓練機能を備えています。これに加えて、障がいのない方でも使っていただける機能も備えました。具体的には、障がい者団体等の諸活動や地域交流等の活動にお使いいただける集会室・多目的室があります。そのほか、福祉関係の書籍を集めた「障がい関連情報コーナー」もご自由にご利用いただけます。喫茶コーナーは、お休み処としてもご活用ください。また、講演会や展示会などの様々な企画も今後実施していきます。東京オリンピック・パラリンピック開催に関連して、障がい者スポーツについても紹介をしてまいります。

このように、サポートセンターには、特にご近所のみなさまにはご遠慮なくお立ち寄りいただきたいと思います。障がいのある方との繋がりづくりについて、ぜひ地元の新井宿地域から発信を始めていこうではありませんか。また、サポートセンターは、大災害の際には「福祉避難所」として障がいのある方々を受け入れ、避難生活を支えます。

災害も、障がい者支援も、「自助・共助・公助」がバランスよく支え合うことが大切です。特に「共助」の部分に大きくかかわる地域のみなさまとは、しっかりと共に歩んでまいりたいと存じます。

## 障がい者総合サポートセンター 3月1日オープン!

愛称  
**さぼーとぴあ**

### 1F 相談支援部門

「さぼーとぴあ」の中心になる機能で、様々な障がいを抱えて困っている方の相談を受け、支援につなげます。また、大田区障害者虐待防止センターの役割も兼ね備えています。

①相談カウンター：相談者はまずここへ。相談支援専門員が対応します。

②相談室：プライバシーの保たれた個室があり、専門家による相談も受けられます。

③オープンスペース：触地図を含めた館内案内図や、集会室の利用状況やスケジュールを表示できるモニターを設置。また様々な催し物も開催されます。

④ラウンジ：壁には書や絵画などが展示され、ゆったりと過ごせる空間です。開設当初は金澤翔子さんの書が展示されています。

⑤喫茶コーナー・自主生産品販売コーナー：飲み物や障がい者施設で作られたパンやお菓子・小物類の販売や紹介。



### 2F 居住支援部門

自立した生活に必要なリハビリテーション・トレーニングを通所で行います(最長1年半まで)。

①機能訓練室：身体障がい・高次機能障がいのある方に対し、身体機能や生活能力の維持・向上のための支援を一定期間行います。

②生活訓練室：知的障がい・精神障がい・発達障がい・高次機能障がいのある方を対象とし、生活能力の維持・向上のための支援を一定期間行います。

③障がい関連情報コーナー：障がい者福祉に関する図書の閲覧や、インターネットでの検索が誰でもできるミニ図書館になっています。また録音図書・点字図書の貸出しもここで行います。

### 3F 地域交流支援部門

障がいのある人もここに集い、障がい者福祉にかかわる「サポーター」の輪を広げ、支えあいのまちを作る拠点としての活動の場です。

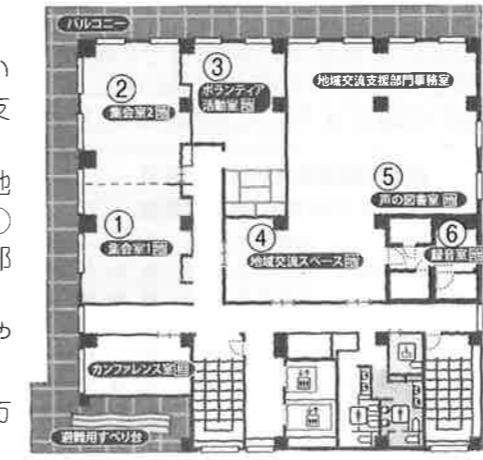
①②集会室：障がい者福祉の関係者を優先的に、地域の方のボランティア活動にも貸出します。①は24人程度、②は30人程度、①②を一つの部屋としても使用可能です。

③ボランティア活動室：ボランティアグループや障がい者関係の団体の活動拠点です。

④地域交流スペース：障がい者福祉にかかる方が集い、交流できるサロンとなります。

⑤声の図書室：録音図書・点字図書の作成、音訳者の養成、点字講習会などを行います。

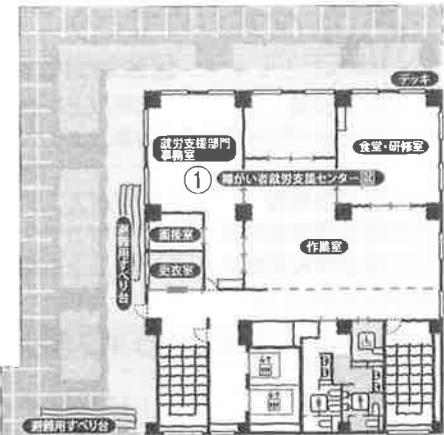
⑥録音室：録音図書を作成する防音の整った3つのスタジオと1つの調整室を備えています。



### 4F 就労支援部門

すべての障がいのある方を対象に、障がいの特性に応じた相談体制・支援プログラム、トレーニングメニューを構築し、就労に向けて訓練を行います。また、就労状況の把握や、就労した障がいの方々のコミュニケーションの場を提供するなど、就労した後の支援も行います。

①障がい者就労支援センター：就労に向けて訓練を行う作業室のほか、食堂・研修室・面接室も備えています。



### 5F 多目的室

150人程度の集会ができるスペースで、3階の集会室同様に広く貸出しを行います。会議や研修のほか、ミニコンサートやレクリエーションなどが行えます。間仕切りにより2つの部屋としても使用できます。講師控え室も設置しています。

### ◇地域の安心…「さぼーとぴあ」の重要な役割◇ ～災害時には、要援護者支援の拠点として～

●災害に立ち向かう堅固な設備！

全館にスプリンクラー。各階に2つの階段。ベランダに避難用すべり台。

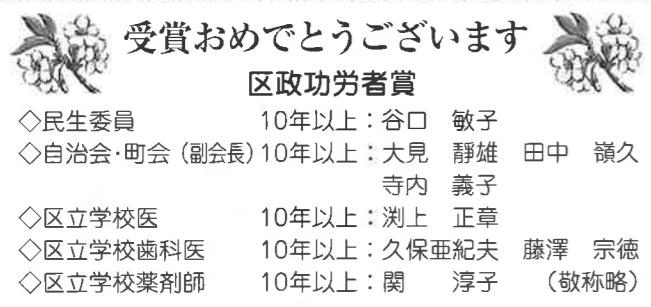
●安全で大規模な福祉避難所に！

自家発電装置。車いすでも使用できる広いシャワー室。地下1階には備蓄倉庫。

●災害時要援護者にとっての自助・共助・公助を考えるリーダーに！ 日頃から、災害ボランティアの組織化、災害時要援護者名簿の活用への取り組み支援など地域と共に考えるリーダー的な役割を果たします。

住 所 大田区中央四丁目30番11号  
電 話 03-5728-9133 FAX 03-5728-9136  
メーラー アドレス supportpia@city.ota.tokyo.jp

休 館 日 年末年始  
開館時間 月曜から日曜まで、8時30分から21時30分まで  
相談支援部門受付時間 月曜日～金曜日 8時30分～19時  
土曜日・日曜日・祝日 8時30分～17時  
「さぼーとぴあ」の詳しいパンフレットは、障がい者総合サポートセンターのほか、新井宿特別出張所に置いてあります。



## 村岡花子「道雄文庫ライブラリー」の本見つかる

昨年4月1日号で「村岡花子と新井宿」を特集しました。その中で、村岡花子がわずか5歳で早世した長男道雄の名前を付けた家庭図書館を昭和27年に自宅に開設し、昭和42年に閉館しました。その際、入二小学校と入四小学校に400冊ずつ蔵書が寄贈された記事を掲載しました。

今回、その時の本が入二小学校で1冊見つかりました。題名は「たのしいえ 3ねんせい」です。表紙の裏にゴム印で「昭和42年9月13日村岡花子氏寄贈」、裏表紙に一部不鮮明で判読困難ですが「住所 村岡花子 道雄文庫ライブラリー 電話番号」とそれぞれ記されています。

この本は、昭和33年6月出版となっていますので、50年以上経っていることになります。



## 新井宿特別出張所 「観光情報コーナー」をご活用ください

昨年11月にオープンした新井宿特別出張所の新庁舎。その正面玄関に入ると「観光情報コーナー」が来所者を迎えます。大森地区のミュージアムマップや新井宿義民六人衆史跡などの観光名所、近隣博物館のパネルなど多くの魅力的な情報を提供しています。広いガラス面には開放感があり、地域の方々の憩いの場としてもご活用いただけます。土日や祝日を含む毎日夜9時まで開放し、皆様のお越しをお待ちしています。

## 編集後記

新井宿特別出張所の新庁舎オープンを契機に今号4面に掲載の通り、新たに「観光情報コーナー」が、池上通りに面して設けられました。同時に大田区が推進している「18色の国際都市事業」として昨年、ブームになった村岡花子と関係の深いカナダ・プリンスエドワード島州との国際交流についての展示も行われていて、地域から世界に向けて

## 新井宿義民六人衆339年報恩感謝祭

江戸時代の初め、延宝年間(1673年～)、江戸近郊の新井宿村では、度重なる洪水と干ばつで村は疲弊し、さらに領主の過酷な年貢取立てに苦しんだ村民六人は將軍に直訴しようとした。しかし、事前に発覚し六人は斬首されるという悲劇が起きました。

命をかけて訴えようとした六人の遺徳をしのび「語り継ごう・我が町に・命をかけた・六人の勇気」を合言葉に新井宿義民六人衆顕彰会は作られ、毎年2月11日(祝日)に善慶寺において報恩感謝祭を行ってきました。今年も大勢の人が集まり住職の読経のあと、6人衆の靈廟にお参りし、最後に参加者全員で清宴と称してささやかな宴会を行い当時の農民の生活をしのびました。

来年は4月中旬に340年の大祭で池上通りを大森駅北口日枝神社から善慶寺まで約1km、仮装六人衆とお稚児さんパレードが行われます。

前回335年の大祭では、1か月前に東日本大震災が起こり自粛の流れのためパレードは中止されましたので、10年ぶりのパレードとなります。

新井宿特別出張所移転に伴い、観光情報コーナーに「新井宿義民六人衆」のポスターを設置しました。六人衆の靈廟を中心に六人衆末裔の家から発見された訴状や遺体を運んだ馬の飼葉桶・遺骨を納めた海苔甕などの写真を史実に基づいて描かれた絵と合わせて、わかりやすく説明しています。



## 新井宿地区総合防災訓練、衆院選のため中止

前号1面でお知らせしました昨年12月14日開催予定の新井宿地区総合防災訓練は、衆議院議員選挙が実施されたため急遽中止となりました。

改めて、新井宿地区総合防災訓練を実施する予定でありますのでその際には、ふるってご参加ください。

なお新井宿地区的学校防災活動拠点での防災訓練は、平成26年度と同様に今年度も実施いたしますのでご参加、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

発行 地域力推進新井宿地区委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会
中央四丁目町会 編集委員長 若生一順
山王三丁目東自治会 副編集委員長 荒木秀樹
中央一丁目町会 副編集委員長 斎藤容子
山王三・四丁目自治会 編集委員 山崎三津子
山王三丁目町会 編集委員 吉川信一
新井宿五丁目町会 編集委員 加藤弘子
新井宿六丁目町会 編集委員 河原神風代
新井宿七丁目町会 編集委員 落合松枝
.....共同編集.....
監修 新井宿自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央1-21-6 ☎ 3776-5391
<a href="http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html">http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html</a>

# わがまち Araijuku 新井宿



「空をとぶとり」  
土屋友昭さんによる作品

## 川端龍子生誕130周年記念～川端龍子とその弟子・高頭信子

川端龍子は、明治18年6月6日和歌山市に生まれ、今年、生誕130周年を迎えた。これを記念し、川端龍子の愛弟子で大田区美術家協会会长の高頭信子さんから川端龍子の思い出を寄稿していただきました。

### わが師 川端龍子先生

大田区美術家協会会长 高頭信子

漆黒の闇にかがり火の赤い火の粉が飛び散り、印半纏の衿に川端、背中には柳のデザインが白く浮かぶ、三越の字を白く見せた人たちも忙しそうに入り乱れて動きまわっている。そして山のような弔問客、さくらがちらちら舞っていました。

昭和41年4月10日記念館に於いての川端先生の通夜の光景です。歌舞伎のような美しさでした。

私が川端先生にあこがれた一番初めは女子美の一年生の時「思潮」の話しを友人に聞いたときからです。それから美術雑誌を探しまくり表紙で見た「朝陽來」万里の頂上はこう描かなければ万里にならない。朝日はここに描くから万里だと寝ても覚めても川端先生一筋になってしまいました。

先生の「豪快」より着想・機智に惑かれました。二年生の時青龍展に行くと事務所の脇に「この画に共鳴する若人は門をたたきなさい」の意の張り紙があり毎日通ってはそれを見ていきましたがさすがに何も出来ず一年がたち三年生の時門をたたきました。塾頭の方が「女子美を卒業してから…」というのを強引に頼みました。そして11月14日作品を持ってくるようにとの事で画室に上りました。

### \*川端龍子(明18～昭41)の略歴\*

- 明治18年(1885)6月6日和歌山市に生まれる。本名昇太郎。生家は呉服商を営む。
- 明治42年、山王3丁目、善慶寺付近に転居。
- 大正5年、大森在住画家の親睦会「木原会」を企画し、第1回展を望翠楼ホテルで開催。
- 大正9年、現在地に住宅と画室を新築。
- 昭和4年6月、青龍社樹立を宣言。
- 昭和34年、文化勲章を受章。
- 昭和38年6月6日、龍子記念館開館。
- 昭和41年1月、池上本門寺の天井画「龍」を描く。4月10日、老衰のため死去。墓所は伊豆の修善寺。

### \*高頭信子(たかとう のぶこ)の略歴\*

長野県生まれ。現在、大田区美術家協会会长で東方美術協会会員。大田区区政功労者表彰2回。

大田区池上4丁目に住む。

- 昭和25年、女子美術専門学校を卒業し、川端龍子に師事。
- 昭和28年、青龍展初入選。以降受賞5回。元青龍社社友。
- 昭和52年より銀座三越にて、毎年個展24回開催。他、日本橋三越等個展37回。
- 平成17年、第1回龍子記念館賞受賞。
- 平成22年、大田区民ホール・アソシエーションにて「道一筋」高頭信子日本画展開催。



前列 川端龍子と高頭信子(1954)

x

x

x

<参考文献>龍子記念館、大田区郷土博物館及び大田区文化振興協会資料  
<写真提供>高頭信子